

比那名居天子と

地獄組の帝王学

— 市民のための公共政策論の基礎 —



天子と地獄組の帝王学？

市民のための公共政策論の基礎

著：後藤和智（後藤和智事務所 OffLine）

表紙イラスト：ベル助（ベルの巣）

発行：2016年10月16日（第3回博麗神社秋季例大祭）

注意

1. 本書は、同人サークル「上海アリス幻楽団」の作品「東方 Project」の二次創作作品です。本書は東方 Project の二次創作ガイドラインに従って制作されているものであり、また著者と原作者及び作者のサークルとは一切関係がありません。そのほか、登場人物の口調などが原作と異なる場合があります。
2. 本書を著作権法の定める私的使用の範囲外で公開などを行うことを禁じます。また、本書の使用により生じた問題についての責任は負いかねます。

はじめに

永江衣玖（以下、衣玖）…総領嬢様、少しお話が。

比那名居天子（以下、天子）…何よ。あたしは地上の人間や妖怪の情けない姿を見て楽しむのに忙しいんだけど。

衣玖…総領嬢様もいずれば天界を統べるものとして成長する必要があります。先般、総領嬢様が博麗神社に地震を起こされたときのようになり、ただ注目されたいからという理由で幻想郷に騷擾を起こしてしまうというのは、天界の将来を担うものとしてあまりにも幼稚です。

天子…またそんなお父様みたいな説教をして……。そもそもあたしが支配者になるなんて想像も付かないんだけど。

衣玖…仮に支配者にならないとしても、その支配者のやることを考えたり、あるいは抵抗したり提案したりするときも、確固たる社会のビジョンと、それを裏付ける論理が必要になります。総領嬢様は、目の前の承認欲求を満たすだけの遊びはやめていたいて、そのあたりを認識していただきたい。

天子…うっさいわね。誰がどういって生き方をしようが勝手にしようが。

霧雨魔理沙（以下、魔理沙）…おーっと。その考え方はやめたほうがいいぜ。まあ私が言っても説得力はないかもしれないが、仮に天界にも社会というものが成立しているのであれば、まさに衣玖の言うとおりだ。高い教養や素養を持つことが期待されているものほど、社会に対して高い見識を持つ必要がある……というのは少々大袈裟だが、少なくともただ自分の欲求だけに忠実にならなくて、その時々々のトピックに首を突っ込んでかき回すだけ、というのは「市民」の振る舞いとしては失格だよな。

比那名居天子と地獄組の帝王学？

市民のための公共政策論の基礎

天子…なにあんた勝手に入ってきてんのよ。あんたも衣玖とかみたいなこと言って、あたしをどうするつもりよ。

魔理沙…実は少し前から、衣玖からお前がそんな自堕落なことを繰り返して心配だ、つつー話を聞いててな。お前に社会を考えるためのリテラシーとはどういうものか、つてものをたたき込みに来たんだ。

天子…そんなこと言ったって、あんた一人じゃどうすることもできないじゃない。

魔理沙…安心しろ。お前が絶対そう言っと思っただから、統治とか支配とかに詳しい奴を呼んできてやってたぞ。というわけで、入ってきていいぞ。

古明地さとり（以下、さとり）…失礼します。

天子…あんたは……。地底を支配してるさとり妖怪？

さとり…ええ。……ふむ、「こんな根暗そつな奴に何が教えられるのよ」ですか。まあ、そのように思われることには慣れっこですから。

天子…予想通りタフな奴なのね。で、あんたがその政策とか統治とかについて教えてくれるのかしら？
噂とかで聞く限りはむしろ圧政を敷いてそんな気がするけど。

さとり…確かに地下世界はその成り行きから荒くれ者が集まり、力による支配がなされていると言えなくもありません。実際地底のものが私に従つのも私の能力を恐れていることでしょう。しかし、私とて力だけに頼っているには限界があると思っています。また、私も社会学や政治学などにはそれなりに通じているので、そのあたりを教えることができればと思います。

天子…以外と頭脳派なのね。まあ最後まで付き合っってやるわ。

魔理沙…おっと、講師様はさとり一人じゃないぜ。もう一人いる。
天子…誰よ。

ヘカーティア・ラピスラズリ（以下、ヘカーティア）…はい。魔理沙ちゃんの頼みと聞いて地獄から飛んできましたー。

天子…げっ、何この奇抜な奴は。

ヘカーティア…あら、地獄の女神たるあたしの前でそういう態度は失礼じゃないかしらー？ あたし

がその気になれば幻想郷に地震以上の災害を起こすことだって可能なんだから。

天子…予想以上に嫌らしくて凄い奴が来たわね……。なんで魔理沙はこんな奴を呼ぶことができたのよ。

魔理沙…いや、先般の月の連中が幻想郷に攻めてくる異変絡みで知り合ってたな、その後はたびたび飲んだり魔法の研究のヒントをもらったりしてるぜ？

ヘカーティア…というわけで、天子ちゃん、よろしくねー。あとさとりちゃんもね。さとりちゃんとは地獄繋がりでそれなりに交流があるからね。一緒に頑張ろうね。

さとり…ええ。……というわけで、魔理沙、読者の皆様にも挨拶と本書の説明をお願いね。

魔理沙…おう、そうだな。というわけで、このたびはサークル「後藤和智事務所Of f Line」の59冊目の同人誌を手にとってくれてありがとう。2015年に出した『アリスのキャンパスライフ論講座——市民のための現代高等教育論の基礎』（後藤和智事務所Of f Line、2015年／第12回博麗神社例大祭）以降、社会科学関係の同人誌は政策と理論を交互に出す予定ているが、本書は、前回が『八雲紫の社会構築主義幻想——市民のための社会構築主義理論の基礎』（後藤和智事務所Of f Line、2015年／第2回博麗神社秋季例大祭）が理論サイトだったので、今回は政策サイトの冊子となる。

さとり…詳しい話とはあとも筆者から語られるかと思いますが、今回公共政策論の同人誌を出すと思ったのは、ひとえに社会言説のセラピー化が進行する上で、社会的に物事を考えるということはどうづつういことかを改めて問い直すという目的があります。冒頭の天子さんではありませんが、近年は自分の欲求だけを満たすために社会問題にコミットするよ様な流れが、特にネット上に満ちています。そして出版業界もそのよ様な流れに乗ろうとしている。これはある意味危機的状況なのではないかと。

比那名居天子と地獄組の帝王学？

市民のための公共政策論の基礎

衣玖：さとりさんが『古明地さどりの自己形成論講義——市民のための「自己」をめぐる社会科学講座』（後藤和智事務所Office Line、2013年／第10回博麗神社例大祭。現在は総集編1巻に収録）の最後に「社会言説のセラピー化」について言及されましたが、それよりも状況は深刻化しているという事なのではしょうか……？

さとり：まあそんな感じですかね。

ヘカーティア：そしてそんな状況を克服するためにこそ、今一度公共政策のあり方について考えることにより、社会に資する言論とはということも一緒に考えるっていう狙いがあるみたいね。

魔理沙：まあ、そんな感じかな。というわけで天子、心してかかれよ。

天子：はいはい。

ヘカーティア：返事は1回よん？

天子：……はい。

目次

はじめに 2

第1章 政策のデザイン 8

- 1.1 なぜ公共政策論が必要なのか 8
- 1.2 公共政策論のアプローチ 10
- 1.3 改めて、公共政策とは何か 13
- 1.4 政策デザインのプロセス 16
- 1.5 市民に期待される政策リテラシー 21

第2章 政策をいかに決定するか 24

- 2.1 合理的な意思決定とは 24
- 2.2 政策決定と費用 28
- 2.3 政策決定と制度・理念 31
- 2.4 意志決定の実際 34

第3章 政策をいかに実行するか

- 3・1 行政とは何か 36
- 3・2 ガバナンス 42
- 3・3 人事のマネジメント 44
- 3・4 政策の評価 45

おわりに

- 参考文献 50
- おわりに 51

第1章 政策のデザイン

1・1 なぜ公共政策論が必要なのか

天子……とはいえ、いきなり公共政策について学ぶっていても、具体的にどいついっことを取り扱うのかわからないわね。

魔理沙……そもそも公共政策とは、社会で解決すべき「公共的問題」をいかにして解決するかというアプローチのことを指す。「公共的問題」とは、少々暴力的にまとめると、道路や鉄道の混雑、「ミヤ廃棄物の問題、住環境の問題、病気や貧困など」といった、多くの人が直面する問題と云うことができそうだ。

さとり……なにが「公共的問題」かということについては厳密な定義をすることは難しいのですが、近年では様々な公共的な問題を、逆に「自己責任」に押しつけてしまっような傾向がいろいろなところで起こっています。例えば、この冊子の執筆中の2016年9月、あるテレビ局の元キャスターで、その後はフリーアナウンサーとして活躍していた人が、人工透析を受けている患者について、彼らの大半は生活習慣が悪くて糖尿病（2型糖尿病）になったのだから自己責任だ、殺してしまえとブログで言ったことが話題になりました。その発言は多方面から批判に晒され、シギュラーで出演していた番組や出演する予定だった番組を次々と降板しました。また、ある保守系の政治家は、日本は生活保護受給者が（2型）糖尿病になる贅沢な国だ、ということを手張して、こちらも批判に晒されました。

魔理沙……ここでひとつ補足しておく、糖尿病には1型と2型があって、1型は幼少期に発症することが多い。阪神タイガースの岩田稔投手は1型糖尿病の患者としても有名な。他方で2型糖

比那名居天子と地獄組の帝王学？

市民のための公共政策論の基礎

尿病は、生活習慣の悪化が原因でなることが多く、糖尿病患者のおおよそ9割を占める。しかし近年は、2型糖尿病であっても遺伝的要因もまた大きいことが分かっていて、さうに言うと日本人は糖尿病になりやすい遺伝的要因を持っていることも指摘されている(注1・1)。さうに付け加えると、野菜などの栄養バランスのいい食品は、比較的高価で提供されていることが多く、逆にタンパク質などを多く含む高カロリー食は比較的安価で提供されているため、貧困層ほどさういった食生活で起る2型糖尿病になりやすいというのはある意味では必然だったリかも。

さとり:糖尿病の話はここで終えるとしても、この例えは一見「自己責任」で処されがちな問題であっても、実は政策的アプローチの出番があることを示してくれます。個人間のいざこざなどといったよほど個人的な問題でもない限りは、多かれ少なかれ社会による解決が必要と言つことができきるかもしれませんね。

天子:ふーん。つまり公共政策論っていうのは、問題の解決に公的な、政策的なアプローチを持ち出すときにどうするか、ってことを考える理論ってこと?

魔理沙:だいたいさういう感じかな。

ヘカーティア:ここで公共政策論、公共政策学の成立について述べておくわよん。公共政策学が学問として成立したのは第二次世界大戦後のアメリカで、ハロルド・ラスウェル(注1・2)っていう学者で、大戦中はアメリカの政府機関に従事してたよな。その時から、公共政策学の誕生時の名前である「政策科学」の構想はあったんだって。ラスウェルは政策科学の定義を『社会における政策形成過程を説明し、あるいは政策問題に関する合理的判断を行うのに必要なデータを提供する科学』(注1・3)としたわ。当初の政策科学は、数理的手法で政策決定の合理化、そして自動化を行うことを目的にされていたのよん。

さとり:このとき、意志決定のツールとして注目されていたのがオペレーションズ・リサーチ(OR)です。ORは管理科学とも称され、当初は企業の経営で用いられていたもので、これが政策決

注1・1 京都大学糖尿病・内分泌・栄養内科「糖尿病教室」
<http://metab-kyoto-u.jp/operation/online/a006.html>

注1・2 Harold Dwight Lasswell
1902-1978 アメリカの政治学者。シカゴ学派の重鎮で、行動論主義の創始者。著書に『宣伝技術と欧州大戦』『政治——動態分析』『権力と人間』など。

注1・3 秋吉貴雄、伊藤修一郎